

ステップきっず 支援プログラム

	活動	<p>今日も元気に来られたかな？（健康・生活）</p> <ul style="list-style-type: none"> バイタルチェック・視診： 体調や配慮すべき部分の確認。 当日の医療的ケアの確認： ケアの時間を確認した上で、遊びの時間を計画。
登園	<p>検温・バイタルチェック</p> <p>お身体チェック(視診)</p> <p>医療的ケアの確認</p> <p>排泄確認</p>	<p>今日は何して遊ぼうか？（健康・生活）</p> <ul style="list-style-type: none"> 体調に合わせた1日のプログラムの実施： ステップきっずでの生活の流れに慣れるために固定化した「デイリープログラム」を個々に作成し、生活場面カードなどのツールを使って見通しを持てるようにしながら生活リズムを整える。ただし、その日の体調や睡眠状況に合わせて午睡時間を調整したり、ケアを増やしたりするなど臨機応変に対応。 環境設定： 一人ひとりの特性に合わせて空間や時間を構造化。
AM	<p>身体を動かす遊び、</p> <p>体操、マッサージ</p> <p>朝の会</p> <p>製作</p> <p>月のねらいに沿った遊び</p> <p>お友だちと遊ぶ …</p>	<p>思いっきり身体を動かそう！（運動・感覚）</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動遊び： 全身マッサージ、バランスボールやタオルブランコ、ボールプールなど、身体を動かす粗大運動遊びを、1日1回午前中のプログラムに取り入れている。 姿勢： 座位保持装置等を利用して座って遊ぶ時間を多く持ったり、抱っこ座位で遊ぶことで筋力低下を防いだり、側臥位・腹臥位をしたりするなど、さまざまな姿勢をとる。姿勢を変えることにより、遊びながら排痰を促したり、さまざまな動作を引き出す。 <p>いろいろなものに触れてみよう！（運動・感覚）</p> <ul style="list-style-type: none"> 感覚遊び： 絵の具遊びやスヌーズレン、お絵描き、粘土遊びなどを実施。感覚過敏の強い児には、無理をせず少しずつ触れる機会を作りながらスモールステップで慣れていき、製作の場面では個々に応じた手法を用いておこなうなどの配慮をしている。 <p>今日は〇〇で遊んでみよう！（認知・行動）</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の特性に合わせた支援： <ul style="list-style-type: none"> 〇初めての人や遊び、物など、新しいことが苦手な児には、短時間で繰り返し関わる（触れる）機会を持つことから少しずつアプローチしたり、毎回新しい事象を取り入れたりするなど、支援の方法を工夫することで経験を重ね、場面に適した行動に導いていく。 〇視覚支援（カード）や声掛け、iPadなどさまざまな情報習得の方法を提示し、体験する機会を持つことで認知機能の発達を促していく。 スイッチ遊び： スイッチで操作できるおもちゃやiPadを積極的に取り入れ、その仕組みを知り、自分でできる楽しさを味わい、もう一度やってみようという気持ちで主体的に挑戦できるように促していく。
お昼	お食事	
PM	お昼寝・休憩タイム	<p>みんなはなにが好きかな？（言語・コミュニケーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉かけ： 声・動きと場面の様子を関連付け、「嬉しいね」「嫌だったね」と受容、共感しながら、応答的な言葉かけを丁寧におこなう。行動を代弁していくことで、事象と言葉がつながるよう援助する。 あいさつ： 身振り手振り、ハイタッチも取り入れながら、朝・帰りのあいさつをスタッフや友だちとおこない、コミュニケーションの向上を図る。 二者択一： 個々に応じた方法（目線、タッチ、声を出すなど）を取り入れたり、場面に応じた絵・写真カード、ハンドサイン、手話を使い、言葉だけでなくさまざまな方法でやりとりをする。 <p>先生やお友だちといっしょに。（人間関係・社会性）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間関係： 担当療育者と1対1で関わり、手遊びやふれあい遊び、やりとり遊びを通じてアタッチメントの形成を促していく。 社会性： お友だちとあいさつのハイタッチをしたり、朝の会など集団で活動し共に遊ぶ時間を設けたりすることで徐々に社会性を育む。季節のイベントや行事にお友だちと一緒に参加することで、楽しく他者と過ごす経験を重ねる。 *主な行事 誕生会、遠足、七夕、水遊び、運動会ごっこ、クリスマス会、豆まき会、卒園式、保育参加、避難訓練…
	好きな遊び	
	お友だちと遊ぶ	
降園	<p>帰りの支度</p> <p>お迎え・送迎</p>	

家族支援

保育参加（ペアレントトレーニング）を定期的におこない、ご家族と情報を共有しながら具体的な支援に反映させていく。
ママ会など、ピアグループで楽しく情報共有ができる機会を設けている。
就学に向け移動時に医療機器の取り扱い等に留意する必要があるため、定期的に移動方法について家族支援をおこなう。

移行支援

移行先の園の看護師や保育士へ、個別の申し送り（医療的ケアを含む）資料の作成。
就学先へ、申し送り資料の作成及び就学前施設見学の受け入れ。
年長時には、就学に向けたプランニングの作成ならびにそれに応じた援助（医療的ケアの調整や座位保持装置での活動を多く持つなど）の実施。

地域支援・地域連携

地域移行・就学移行の取り組みとして、医療機関や訪問看護ステーション、他事業所と連携を図り情報を共有する。

職員の質の向上

月1回の療育・保育に関する施設内研修に加え、不定期で医師、看護師による勉強会を実施。
近隣施設やオンラインで開催されている外部研修への参加。
常勤保育士（一部非常勤）は3号研修に参加、医療的ケアを実施。
全職員が虐待防止に関連する研修に年1回以上は参加し、その上で毎月の所内ミーティングでも話し合いの機会を設けている。